



題 字  
初代会長 松野 盛吉  
定 価 1部 48円  
(購読料は年会費に含む)

発行人  
〒010-0951  
秋田市山王四丁目1番2号  
秋田地方総合庁舎内  
秋田県消防協会  
会長 中田 潤  
電話 018-867-7320  
FAX 018-863-5910  
<http://www.shoubou-akita.or.jp>  
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷  
〒010-0951  
秋田市山王7丁目5-29  
株式会社 松原印刷社  
電話 018-862-8760  
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

# 令和元年度 秋田県消防協会評議員会開催される

## 平成三〇年度会計決算などを承認

一般財団法人秋田県消防協会の令和元年度定時評議員会が五月三〇日(木)、秋田市の「イヤタカ」で開催されました。

評議員会には、秋田県総務部危機管理監渡辺雅人様など三名が来賓として出席されたほか、評議員十七名、理事・監事十四名が出席しました。

最初に中田会長があいさつを述べ、引き続き渡辺危機管理監から祝辞をいただきました。

議事に入り、平成三〇年度事業の概要報告や会計決算、任期満了に伴う監事三名、辞任に伴う理事三名、評議員九名の選任などが審議されました。



菊池評議員長

### 会長あいさつ



秋田県消防協会会長  
中田 潤

ご来賓並びに評議員の皆様には、当協会の運営に対し、格別なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

消防団を取り巻く環境が一層厳しくなる中、県内の消防団員数は、一六、二〇〇人余りとなり、五年間で、約一、二〇〇人減っております。

一方、男鹿市消防団でOBの機能別団員の加入、井川町消防団で役場職員が加入するなど、成果をあげているところもあります。

将来の各地域における消防団の果たす役割に関して、しっかりと考えたのもと、県、市町村、協会がそれぞれ役割を果たしていくことが重要であります。

今後、地域防災力の中核である消防団の活動を支えるため、協会運営の充実を図ってまいりますので、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

令和元年度全国統一防火標語

ひとつずつ いいね！で確認 火の用心

### 来賓祝辞



秋田県総務部  
危機管理監  
渡辺 雅人

皆様には、県民の生命と財産を守るため、昼夜を問わずご尽力賜っておりますことに感謝申し上げます。

近年、自然災害が頻発しており、県内でも昨年五月、大雨により家屋の浸水や河川の氾濫などの被害が発生しましたが、幸い人的被害がなかったことは、消防関係者の日頃の努力の賜と感謝申し上げます。

今年一月、任務遂行中の消防職員二名が殉職する不幸な火災がありました。消防団の皆様には、地域防災のリーダーとして、災害から住民の安心・安全を守るという任務にあっても、自らの安全を確認しながら、適切な対応をお願いします。

秋田県消防協会は、地域防災力強化のため、長年、消防団員の教養訓練や消防技術の向上などにご尽力されており、今後も、消防思想の普及や消防活動の強化が着実に図られることを期待申し上げます。

■承認された議案

- (1)平成三〇年度事業の概要報告
- (2)平成三〇年度会計決算
- (3)監査報告
- (4)役員等の選任

\*任期満了に伴い選任された監事

武石 聡 (上小阿仁村団長)

遠間 富和 (井川町団長)

鈴木 修 (東瀬瀬村団長)

\*辞任に伴い選任された理事

山木 将弘 (秋田県総合防災課長)

菊池 二郎 (横手市団長)

伊藤弥真彦 (秋田市消防長)

\*辞任に伴い選任された評議員

澤口 紀夫 (小坂町団長)

奈良 巧一 (鹿角広域消防長)

戸島 丈夫 (北秋田市団長)

高橋 寛儀 (潟上市団長)

齊藤 一 (八郎潟町団長)

大場 直樹 (男鹿地区消防長)

佐々木勝美 (由利本荘市副団長)

渡辺 勇悦 (仙北市団長)

菅谷 和明 (横手市消防長)

■協議事項等

- (1)令和元年度事業計画及び収支予算

- (2)秋田県消防協会の収支状況

- (3)令和二年度秋田県消防大会の開催支部 (第七三回大会は、鹿角支部で開催します。)

- (4)第五六回秋田県消防操法大会出場順

①開催日時、場所

令和元年八月二四日(土)

令和元年度 秋田県消防協会支部訓練大会等日程

支部名	開催月日	開催場所	種 目		
			小ポンプ操法	ポンプ操法	軽可搬ポンプ操法
鹿 角	7.7(日)	鹿角市役所駐車場	3	1	
大館北秋田	7.28(日)	大館市比内グラウンド	8	3	
能代市山本郡	7.28(日)	能代港下浜岸壁埠頭	5	4	
男鹿潟上南秋	7.28(日)	潟上市役所職員駐車場	1	2	4
秋 田 市	7. 7(日)	秋田市消防訓練場(秋田市御所野)	4	6	1
由利本荘にかほ	7.27(土)	にかほ市消防本部庁舎前	9	7	
大仙仙北美郷	7.13(土)	大曲の花火公園	2		3
横 手 市	7.28(日)	雄物川河川公園(横手市雄物川町)	6	5	2
湯沢市雄勝郡	8. 4(日)	湯沢市松ノ木グラウンド	7		

②出場順 秋田県消防学校 放水訓練場

第十三回東北水防技術競技大会

秋田市消防団が参加

水防技術の向上と意識向上を図るとともに、新たな人材を確保することを目的とした「第十三回東北水防技術競技大会」が五月二六日(日)、福島県郡山市の阿武隈川上流総合水防演習会場で行われました。



東北の県選抜の六団体各二〇名が参加。本県からは秋田市消防団(雄和第一、雄和第二、雄和第三、雄和第四分団)が参加し、「月の輪工法」と「シート張り工法」を行



いました。

大会当日、

郡山市の気温は三二度を超え、立っているだけでも辛い環境でありましたが、出場した団員は厳しい暑さの中で、日頃の訓練の成果を遺憾なく発揮してくれました。

審査基準は、出来映えと競技中の規律となっています。なお、本大会は、二〇一九年度阿武隈川総合水防演習の開催に併せて行われました。



(情報提供)秋田市消防本部警防課

## 一般財団法人秋田県消防協会 理事・監事・評議員

(令和元年5月30日現在)

## 〔理事〕

役 職	氏 名	所属・階級等
会 長	中 田 潤	能代市消防団 団長
副 会 長	児 玉 誠 喜	鹿角市消防団 団長
"	高 橋 正 尚	美郷町消防団 団長
"	周 防 彦 宗	由利本荘市消防団 団長
理 事	山 木 將 弘	秋田県総務部総合防災課 課長
"	齋 藤 勉	大館市消防団 団長
"	軍 司 信 幸	湯沢市消防団 団長
"	谷 口 良 一	大潟村消防団 団長
"	大 島 昌 良	秋田市消防団 団長
"	菊 池 二 郎	横手市消防団 団長
"	伊 藤 弥真彦	秋田市消防本部 消防長
"	鈴 木 良 則	大曲仙北広域市町村圏組合 消防本部 消防長
"	伊 藤 智	能代山本広域市町村圏組合 消防本部 消防長
業務執行理事	佐 藤 功	秋田県消防協会 事務局長

## 〔評議員〕

役 職	氏 名	関係する消防機関
評 議 員	児 玉 忠 幸	鹿角市消防団
"	澤 口 紀 夫	小坂町消防団
"	奈 良 巧 一	鹿角広域行政組合消防本部
"	戸 島 丈 夫	北秋田市消防団
"	伊 藤 孝 年	藤里町消防団
"	青 山 竹 千 代	三種町消防団
"	本 多 健	八峰町消防団
"	吉 田 陽 一	男鹿市消防団
"	高 橋 寛 儀	潟上市消防団
"	齊 藤 一	八郎潟町消防団
"	藤 井 好 春	五城目町消防団
"	大 場 直 樹	男鹿地区消防一部事務組合消防本部
"	保 泉 隆	秋田市消防団
"	高 橋 清 功	秋田市消防団
"	佐々木 勝 美	由利本荘市消防団
"	佐々木 伸 一	にかほ市消防団
"	佐 藤 一	大仙市消防団
"	渡 辺 勇 悦	仙北市消防団
"	菅 原 一 太 郎	横手市消防団平鹿支団
"	柴 田 和 久	横手市消防団十文字支団
"	高 橋 良 則	横手市消防団大雄支団
"	菅 谷 和 明	横手市消防本部
"	佐 藤 孝 吉	湯沢市消防団
"	柿 崎 真 悦	羽後町消防団

## 〔監 事〕

役 職	氏 名	所属・階級等
監 事	武 石 聡	上小阿仁村消防団 団長
"	遠 間 富 和	井川町消防団 団長
"	鈴 木 修	東成瀬村消防団 団長

## 平成30年度決算〔正味財産増減計算書〕

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
経常収益計	31,389,356	31,735,916	△ 346,560
主な内訳			
基本財産運用益	255	255	0
受取会費(掛金)	5,447,700	5,533,800	△ 86,100
事業収益	291,600	291,600	0
受取補助金等	12,785,858	13,084,276	△ 298,418
受取負担金	6,611,511	5,085,045	1,526,466
受取寄付金(会費)	5,604,600	5,672,700	△ 68,100
その他経常収益	647,832	2,068,240	△ 1,420,408
経常費用計	31,147,482	32,576,822	△ 1,429,340
主な内訳			
給与等	11,805,473	11,933,152	△ 127,679
旅費交通費	3,532,288	3,918,043	△ 385,755
消耗什器備品費	3,951,120	4,360,139	△ 409,019
印刷製本費	2,233,395	2,311,731	△ 78,336
支払助成金	1,517,230	1,560,741	△ 43,511
委託費	1,761,101	1,537,978	223,123
互助会見舞金	2,240,000	1,960,000	280,000
その他経常費用	4,106,875	4,995,038	△ 888,163
当期経常増減額	241,874	△ 840,906	1,082,780
当期一般正味財産増減額	241,874	△ 840,906	1,082,780
一般正味財産期首残高	109,249,554	110,090,460	△ 840,906
一般正味財産期末残高	109,491,428	109,249,554	241,874
正味財産期末残高	109,491,428	109,249,554	241,874
主な内訳			
基本財産	3,000,000	3,000,000	0

# 二〇一九年春の叙勲・褒章 第三二回危険業務従事者叙勲

二〇一九年春の叙勲・褒章及び第三二回危険業務従事者叙勲の受章者が発表され、本県の消防関係では叙勲二四名、褒章一名、危険業務従事者叙勲九名の方が受章されました。誠におめでとございます。

(記載は五十音順)

## 二〇一九年春の叙勲

### ◆瑞宝小綬章(一名)

元秋田市消防本部

消防正監 石川勝直

### ◆瑞宝双光章(二名)

元五城目町消防団

団 長 一 関 鏢 一

元大館市消防団

団 長 成 田 十喜男

### ◆瑞宝单光章(二二名)

元鹿角市消防団

副 団 長 阿 部 文 一 郎

元大仙市消防団

副 団 長 安 藤 喜 美 雄

元大仙市消防団

副 団 長 伊 藤 金 夫

元北秋田市消防団

副 団 長 太 田 兵 一

元羽後町消防団

副 分 団 長 小 野 崎 八 郎

元山内村消防団

分 団 長 小 原 春 男

元潟上市消防団

副 団 長 菊 地 栄 一

元男鹿市消防団

分 団 長 木 元 俊 夫

元大仙市消防団

副 団 長 小 松 喜 一

元湯沢市消防団

副 団 長 今 修 一

元由利本荘市消防団

副 団 長 今 野 文 夫

元八郎潟町消防団

団 長 齊 藤 和 雄

元仙北市消防団

団 長 佐 々 木 久 悦

元由利本荘市消防団

副 分 団 長 佐 々 木 實

元横手市平鹿消防団

団 長 首 藤 俊 行

元男鹿市消防団

団 長 鈴 木 敏 信

元美郷町消防団

副 団 長 高 橋 英 喜

元三種町消防団

副 団 長 田 中 勉

元秋田市消防団

分 団 長 藤 原 賢 一

元北秋田市消防団

分 団 長 山 田 直 孝

元横手市横手消防団

分 団 長 山 田 松 太 郎

## 二〇一九年春の褒章

### ◆藍綬褒章(一名)

現八郎潟町消防団

分 団 長 齊 藤 悟

## 第三二回危険業務従事者叙勲

### ◆瑞宝双光章(八名)

元由利本荘市消防本部

消防司令長 井 島 忠 義

元由利本荘市消防本部

消 防 監 伊 藤 敬 一

元横手市消防本部

消 防 監 川 村 東 吉

元湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部

消防司令長 高 橋 道 男

元能代山本広域市町村圏組合消防本部

消防司令長 芳 賀 康 夫

元大館市消防本部

消 防 監 畠 山 亮 一

元能代山本広域市町村圏組合消防本部

消防司令長 本 庄 毅

元秋田市消防本部

消 防 監 渡 邊 強

### ◆瑞宝单光章(一名)

元大曲仙北広域市町村圏組合消防本部

消防司令長 高 橋 和 夫

## 第七三期初任教育 「1ヶ月を振り返って」

秋田県消防学校

第七三期初任教育の入校生は、四月一二日の入校式から、もう二ヶ月が過ぎました。

入校当初、全く未知の分野である消防の教育訓練への不安、寮での共同生活への戸惑いなどが感じられましたが、今ではみんなが協力して日々の学校生活を送っています。

教育訓練も五月に入ると、空気を吸着装訓練、救助結索訓練などの実技訓練が本格化しています。

こうした中、消防学校から「1ヶ月を振り返って」と題した作文が寄せられましたので紹介します。





相場 蒼太郎  
(秋田市消防本部)

消防学校に入学して一ヶ月が経過した。この一ヶ月を振り返って、思ったことが二つある。

一つ目は、仲間たちとの関係がこれからも大事にしたいということだ。四月からの一ヶ月、色々なことが起きた。自分が叱られたり、全員で叱られたこともあった。そんな日は、夕食や体力錬成の時などに、その日のことを話し合った。自分にとって、この時間が大切で明日も頑張ろうという活力になった。これから仲間が落ち込んでいる時や悩んでいる時があるかもしれないが、その時は、仲間を支えていきたいと思っている。

二つ目は、消防士としての基礎知識や体力をレベルアップしなければならぬことだ。六五ミリホースや梯子の搬送は、想像していたよりもはるかに重く、長時間持ち続けることができなかった。現場ではこれでは通用しない。座学で学ぶ知識にしても、何もわからないまま現場に出してしまうと、怪我をしてしまうかもしれないので、体力と基礎知識のどちらもレベルアップが必要だと思う。これからも、この二つのことを意識して五ヶ月間を大事に過ごしていきたい。



菅原 由菜  
(大館市消防本部)

この一ヶ月を振り返ってみて感じることは、たくさんあります。中でも特に「もっと頑張らなくてはいけない」ということを強く感じました。

訓練だけでなく、座学や生活面など、すべてでもっと努力が必要です。訓練では、ホース一本すらまともに担ぐことができず、体力の無さを身をもって痛感しました。これでは、これから先の訓練に、しっかりと取り組むことができません。そのため、放課後や休日に、ランニングや筋力トレーニングを行い、体力が向上するように努力します。座学では、初めて耳にする用語が多く、内容も多いため、とても大変でした。これから効果測定が行われます。テスト前だけでなく普段から集中して取り組み、確実に身につけたいです。生活面では、規律ある生活が大切だと学びました。大きな声で挨拶する、時間厳守、整容を整えるなど、当たり前のことを確実にできるよう、早いうちに身につけられるよう努力します。

このほかにも、様々な場面で、自分はまだまだだと感じました。一日をしっかりと振り返り、反省点を日々改善していく、自分を高めていけるよう頑張りたいです。



石川 悠汰  
(由利本荘市消防本部)

消防学校に入校して、あつという間に一ヶ月が過ぎた。学校生活には慣れてきたが、大変なのはこれからだ。夏になり気温が上がる中で訓練だ。副校長は、「体を追い込んで自分の限界を知らなければならぬ。」と言っていた。自分はどれくらいか、時間活動が可能なのか知らなければ、いざ現場に出て限界に突き当たってからは遅いということだ。今はまだ、自分の限界を作ってはいけないが、限界を知らなければ、救助活動を十分に行うことができなくなってしまう。これからは、覚えることが増えて、体力的、精神的にも辛くなるかもしれないが、日々努力してレベルアップに努めていきたい。

最初の一ヶ月で、全県から集まった消防士と大分仲良くなったと思う。志を同じくする仲間と共に頑張りたいと思う。苦しい時は助け合い、時にはライバルとして競い合い、一人も欠けることなく修了式を迎えたいと思う。今は、勉強と訓練を頑張っている。所属に胸を張って戻れるように努力したい。また、学校生活は長い。多くの人とコミュニケーションをとる、様々なことを吸収して、自分の成長につなげていきたい。



池田 享平  
(にかほ市消防本部)

消防学校に入校して一ヶ月が経ち、自分の足りない部分がたくさん見えてきました。知識は勿論、制服の着方一つにしても指摘されることがありました。社会人としての自分の半年後を考えると、もっと自分に厳しくなければなりません。基本知識を身につけ、それに根拠を持てるように、訓練には課題をもって取り組みたいと思います。体力面でも、自分は他の人に劣っていると感じ、夜にランニングや筋力トレーニングを継続して行ってきました。

消防士は人を助ける仕事であり、地域住民から信頼される存在でなければなりません。知識、体力とも、残り五ヶ月で、さらに向上できるように努力していきたいと思っています。

一ヶ月が経つと自分に気の緩みが出てきます。今まで厳しくしていたのが、これぐらいでいいとなつたり、服装のチェックを怠つたりすることがありました。もう一度気を引き締めて、生活を送りたいと思います。モチベーションを維持するためには、目標を失わないようにすることが大切です。五ヶ月後、自分がどういった姿で卒業したいかをもう一度しっかりと考えて、頑張っていきたいです。



安藤 壘  
(横手市消防本部)

四月を振り返ってみると、基礎・基本となることばかりだった。教官方もおっしゃったとおり「はじめが肝心」だと思うので、とても集中力を要した。特に礼式では基本の姿勢から敬礼、その他の動作について文字通り指の先まで意識して取り組み、注意を受けながら形を正していった。一度、敬礼をした時、「きれいだ」と褒められて凄く嬉しく思った。それ以降自信を持ってできるようになり、また、この形を崩さないように、良い形を自然と求められるようになった。また、訓練ではホース・梯子を取り扱い、これからという時に連休に入ってしまった残念だった。ホースは未だに外周一周は厳しいが、操法の四十メートルダッシュはできるようになった。延長の際の動作のポイントも大体理解でき、節度を持って素早く動くことが課題だ。梯子の取り扱いは、初めの一時間では全く出来なかった。次の機器の授業を迎える前に予習しておきたい。一方、座学では、積み重ねが大事だと考えているので、はじめのうちに確固たる土台を築きあげておきたい。

来月から本格化すると思うので、一所懸命に頑張りたい。



嶋崎 滯  
(五城目町消防本部)

日々、緊張感を持ちつつ、早く寮の生活に慣れること、というのが私のこの一ヶ月の目標であった。寮の生活にはだいぶ慣れ、緊張感も保ちながら日々生活できたのでよかったと思う。この一ヶ月は、何もかもが新鮮で覚えることもたくさんあった。座学で学ぶこと、ロープ結索、訓練で学ぶことなど、とにかく、たくさんある。正直、戸惑うことも多々あったが、同時に消防士の凄さ、難しさというのを改めて実感した。

十八歳で若いので体力には自信があり、訓練も大丈夫だと思っていたが、ついていくのに精一杯であるというのが実際であった。だから、夕食後の体力錬成の時間では、友人と切磋琢磨し合いながら、体力、筋力の向上に努めた。他の人に比べると自分の筋力はまだまだであるが、この一ヶ月で体力と筋力はパワーアップしたので、これを実際の訓練につなげられるように努力していきたいと思う。

来月は、効果測定もある。満足のいく結果を出したいので、しっかりと勉強したい。土台を作り、立派な消防士になれるよう、今後も取り組んでいきたいと思う。



田中 健斗  
(鹿角広域行政  
組合消防本部)

自分がこの一ヶ月で感じたことは、働くということの大変さと自律することの難しさだ。年齢層の広い中で自分をどうアピールしていくかも課題だと思った。特に日直に当たった日には、これからのことをより考えさせられた。職員室の入室の際にも、事前に配布されていた入室の際の注意も見ておらず、やり直し指導を受けてしまった。明らかに自分の準備不足であり、誰も助けてくれるはずがない。防げるミス無くする。当たり前のことを当たり前にこなせるようになること。余計なことでも怒られると時間のロスになるので、自分の貴重な時間を大切にしたい。また、訓練礼式のときに指揮者をやりに、いつも動かされている側とは違った景色を見ることができ、違う雰囲気を経験できた。もちろんこのままではだめだと思った。自分がミスをすると周りにも迷惑がかかってしまうので、責任の大きさを感じた。思っていたより早く時間が経った。短い時間で吸収しなければならぬことがたくさんある。今頑張らないと一生後悔するので、分からないところを聞いたりして、自分のものにした。



伊藤 雅道  
(能代山本広域市町  
村圏組合消防本部)

消防学校に入校して一ヶ月が経ち、生活のリズムが掴めてきました。毎日の訓練や座学、授業後の体力錬成や予習、復習など、一日があつという間に終わってしまい、早くも一ヶ月が経ちました。

訓練では、自分の体力不足を痛感し、学校生活を通して、現場で通用する体作りに励みたいと思いました。訓練が進むにつれ、応用力・対応力が求められる場面も増えていくと思うので、仲間と連携し、体力面や技術面の向上を目指したいと思います。

座学では、授業中に教官の話をしっかりと聞くことが出来ましたが、予習があまりできなかったため、今後はしっかりと予習するように生活リズムを整えたいです。そして、さらに意識を高く持ち、消防職員としての知識を学びたいと思います。

生活面では、集団生活に慣れていなくて大変でしたが、一ヶ月も生活するうちに慣れてきました。洗濯やアイロンがけも、空いた時間を活用して取り組むことができました。

これからは、授業面、訓練面、体力面での向上を目指し、卒業時には一人前の消防士になれるよう頑張りたいです。



進藤 奎亜  
(男鹿地区消防本部  
事務組合消防本部)

一ヶ月で学んだこと、経験したことは多くありますが、その中でも、消防士としての心構えは、入校する前とは大きく変わりました。

例えば、団体行動で、一人の失態で全体に迷惑がかかってしまいまず。靴の向きや物をかける位置まで揃えることの意味は、初めは分かりませんでした。しかし、消防はチームで動くもので、命令と違う行動が原因で、自分の命だけでなく、仲間

の命まで失う可能性があるという話を聞いて、納得がきました。  
チームプレイは必要不可欠ですが、一朝一夕で出来るものではなく、普段の小さなことから覚えさせるという意図があることを知りました。  
服装の乱れも、火災現場でのやけどにつながるります。普段から細かいことに気を配り異変に気づく、これは現場でも大事な能力だと思えます。  
教官が厳しく指導することには意味があり、授業、訓練、寮生活を通して、消防吏員として必要な心構えや能力を教えてもらっているのだと知りました。消防学校で学んだこと一つ一つを大事にして、立派な消防吏員になるため、日々精進して過ごしていきたいです。



今野 拓真  
(大曲仙北広域市町  
村圏組合消防本部)

消防学校に入校してから一ヶ月が経ち、寮での生活に慣れ始めた。入寮した当初は、わからないことが多く、周りの学生と話し合いながら物事を進めることがほとんどだった。しかし、今は自分で時間管理を徹底することに努めている。この行いで自分に少し気持ちの余裕が生まれ、他の学生にも目を配れるようになった。この気持ちを忘れずに学生生活を送りたい。

生活が過ぎるにつれて、授業や訓練の質も徐々に上がってきている。最初は周りに追いつくのに精一杯で、訓練についていけないこともあった。復習に多く時間を費やしてしまい、予習がおろそかになってしまった事が多々ある。事前に訓練内容を把握し、予習する時間をつくり、訓練に全力で向かうように努力したい。



修了式まで残り五ヶ月を切り、時間が刻々と過ぎていく。学ぶべきことがたくさんある学生生活だが、やるべきことに全力で向き合い、一日を大切にしていきたい。



佐藤 柁斗  
(湯沢雄勝広域市町  
村圏組合消防本部)

一ヶ月を振り返ってみると、自身の体力の無さと、今までの生活がどれだけだらしなかったかを思い知らされたと感じています。体力測定や日々の体力錬成を通して、どの部位の筋肉が足りないのか分かってきました。毎日の訓練や放課後の自由時間を有効に活用し、少しずつ体を変化させていきたいです。今までの生活のリズムが大きく変わりました。規則正しい生活習慣に体を慣れさせ、健康管理にも注意し、訓練を休むことが無いようにしていきたいです。

毎日の訓練は想像していた以上に大変で、多くのことがありました。消防という職業の過酷さや、大変さを知ることができました。実務経験を積んだ先輩の話聞いて、消防はどのような現場で活動し、どのような姿をみせなければならぬかを知ることができました。今後の訓練では、現場を想定した動きをして、本番のための訓練をしていきたいです。  
この一ヶ月は、消防に対しての考えが変わる期間でした。訓練はさらに厳しさを増すと思います。目標の消防人になれるよう、意識を高く持ち、訓練に取り組んでいきたいです。

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防  
ポンプ自動車  
小型ポンプ  
ホース

設 備  
火災報知器  
スプリンクラー  
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)  
猿田興業ビル3F FAX 018 (824) 3651



支部情報アラカルト

『火災想定訓練を実施しました』

四月七日(日)、春の火災予防運動の一環として、鹿角市役所駐車場において、火災発生防止、消防団員の技術向上と地域住民の防災意識の高揚を図ることを目的として、火災想定訓練を行いました。

訓練は、暴風警報及び火災警報の発令下、消防機関の厳重な警戒体制中に林野火災が発生。強風にあおられ延焼拡大し、また多数の負傷者が発生したとの想定のもと、鹿角市消防団及び鹿角市消防団協力事業所から約一七〇名が参加して行われました。



消防団と協力事業所は連携した放水訓練や救護、避難誘導訓練を行い、それぞれの技術や知識を活かし、効率的で円滑な消防活動の向上を図りました。また、各地域の被害状況を把握することを目的として、団員がメールを使用した情報収集訓練も合わせて行い、情報収集の強化も図りました。

これから水害の多発期を迎えますが、この訓練でより強化された連携を活かして火災のみならず各種災害へ応用し、地域の安全安心に努めていきたいと思えます。



(情報提供 鹿角支部)

火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	令和元年		平成30年			同期比較	
	5月	累計	5月	累計	年計	5月	累計
建 物	26	84	11	73	166	15	11
林 野	11	23	0	10	14	11	13
車 輛	4	11	5	18	39	- 1	- 7
その他	27	60	9	37	72	18	23
合 計	68	178	25	138	291	43	40
死者数	4	11	2	10	18	2	1
負傷者数	3	32	1	19	46	2	13

モリタ消防ポンプ シバウラポンプ  
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式  
各種消火器 消防機器一式

株式会社 能代消防センター  
株式会社 協 立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57  
TEL (0185) (52) 6494  
(52) 6361

トーハツ消防ポンプ  
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター  
消防被服全般 秋田県代理店

株式会社 高義商会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ  
モリタ自動車ポンプ  
ジェットホース  
消防被服全般  
火災報知器各種  
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32  
TEL(0183) (42) 2125  
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183) (73) 2588

株式会社 タカギ

秋田県横手市寿町1番28号  
TEL (0182) (32) 3880  
FAX (0182) (32) 0839

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | キンパイホース  
トーハツポンプ | シバウラポンプ  
各種消防機械器具 | 各種消火器  
消防設備保守点検

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>  
E-mail [ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp)